

主任介護支援専門員更新研修を受講希望の皆様へ

**【事前課題作成についての注意事項】**  
**必ず内容を確認の上、事前課題の提出を行ってください。**

※主任介護支援専門員更新研修では、受講者が地域や事業所で他の介護支援専門員に対して行ったスーパービジョンの事例の提出が必要となります。作成する事例は、**受講者自身が担当した利用者の事例そのものではありません。**

他の介護支援専門員が、主任介護支援専門員のスーパービジョンを受けて、マネジメントがどのように展開したかを確認できるスーパービジョンの実践事例を作成し、提出していただきます。（サービス計画書等の所定の様式の書き方などについての指導は該当しません。）

主任介護支援専門員更新研修では、スーパービジョン事例を通して「スーパービジョン」の演習を行います。「スーパービジョン」の演習内容に沿った事例提出が必要となりますので、以下の添付資料を確認の上、事前課題の作成をお願いいたします。

確認のために、まず、「スーパービジョン」とは？

**スーパービジョン**

スーパービジョンは、個別の事例に詳細な報告と考察を指す質的研究の一つの方法で、単なる事例検討会ではありません。スーパービジョンの基礎を習得するために、スーパービジョンの方法について学びます。

**事例検討との違い**

事例検討会は、介護サービスを提供している過程において、サービスに携わっている人が集まり、利用者の状態の変化や新しい課題や問題点などが無い、アセスメントのズレや介護サービスの提供に再検討の必要はないかどうかについてなど、実際にあった事例を用いて検討する会議です。必要であれば、アセスメントやケアプランの再検討を行います。**事例検討の目的は困難事例等の問題解決です。スーパービジョンは、困難事例等の問題解決にとどまらず、事例をさらに深めることにより、他の介護支援専門員の方へのスーパーバイズの視点（スーパービジョンのポイント）を学びます。**

演習では、スーパービジョン事例の事例概要やプロセスレコード用いて、事例をイメージ化しながら事例の持つ本質的な課題に迫ります。

限られた時間で演習を進めるためには、一定の情報量が必要です。（様式4 スーパービジョンの経過（プロセスレコード）については、3枚以上3枚目8割以上）

## 【スーパービジョン事例作成時のポイント】

- ① 取り上げた場面は提出の領域に合った内容ですか？例えば、「認知症」を有しているから認知症の事例になるのではなく、スーパービジョンの中心的な課題が「認知症」を背景とした事例である等、その領域で作成した主任介護支援専門員としての根拠が必要です。
- ② 指導した困難事例は複雑に問題が絡んでいる可能性があります。その問題を演習で構造化できるように双方で交わされた会話だけではなく、その場の情景やその時の対象者の表情、指導者側の考えや気持ちもプロセスレコードに書きましょう。
- ③ 「逐語」で書くとわかりやすいです。プロセスレコードは逐語録をしっかりと入れていきましょう。
- ④ 個人情報の問題から場所や人物が特定できる記載はさけて下さい。
- ⑤ 最後に、なぜこの場面をこの領域で取り上げたかを自己点検してください。（スーパービジョンの核心的場面がプロセスレコードに含まれているかを作成後確認ください。漫然としたプロセスレコードは演習を停滞させてしまいます。）

事前課題作成前に、主任介護支援専門員研修受講時を振り返ってみましょう。

地域の主任介護支援専門員（スーパーバイザー）として、どのようなスーパービジョンを行っていますか？

### ～岩間先生の「事例研究（スーパービジョン）」の理論から～

事例研究（スーパービジョン）において解釈（事例の見立てと構造化）そのものが援助方針の明確化を導きだすもの

解釈のプロセスを「情報・データの統合化、問題・課題の構造化、実践への方向づけ  
解釈のプロセスにおける「価値」の視点

解釈のプロセスに係る情報の分析については、以下の4点が重要です。

- ① 分析は、すべての関連する情報に根拠がある。
- ② 分析において発見されたすべてのものを示し、その結果の意味や今後の取り扱いについて説明することができる。
- ③ 分析はその事例の最も重要な側面をとらえている。
- ④ 事例研究（スーパービジョン）に自身の先駆的な専門知識が生かされている。

作成のポイントとして、

1. これまで関わったスーパービジョン事例の中で、「困難に感じた」「マネジメントがうまくいかなかった」「対応に困った」と感じた事例で、もう一度自分自身のスーパービジョンを振り返ってみたいと感じた事例を選ぶとより深めやすいです。
2. 「スーパービジョン」は事例提出者（報告者）が大きな役割を持ちます。プロセスレコード（支援経過）のどこをとりあげて事例をまとめるかも大切なポイントです。事例のキーとなる重要な場面を見立てる力が大切です。そして、この重要な場面をプロセスレコードには書きます。
3. あまりにも情報が少ないと、岩間先生の理論にもある「情報・データの統合化」ができません。一定の情報量はカバーできるよう事前課題の作成をお願いします。

4. プロセスレコードは担当の介護支援専門員さんの対応と、スーパーバイザーとして関わった主任介護支援専門員（受講生）の方のスーパービジョン、その考察を記入してください。  
主任介護支援専門員としての考察も必ずご記入ください。
5. プロセスレコードは時系列に記入します。
6. プロセスレコードの量が少ないと演習が進まない場合があります。スーパーバイザーとしてのスーパービジョンの内容がわかるように作成してください。

演習では、事例の持つ中心的課題に迫りながら情報の関連性や専門的知識、事例を見る視点等から、事例の今後の方向性等を検討するスーパービジョンの演習となります。提出された事例をかなりの時間をかけながら、スーパービジョンの展開過程の中で読み解いていきます。この演習に対応できる内容で事前課題の作成を進めていただくよう、よろしくお願いいたします。

作成された事前課題が演習に対応できない内容と判断された場合は、「再提出」をお願いしています。（昨年度は半数近くの方が再提出となりました。）

「再提出」の場合も、提出期限を厳守して下さい。